

学校教育目標	知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成	◆記入にあたっての留意事項 ○ 取組については、各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること。 ○ 「取組」「評価項目」「評価項目についての重点的取組」を設定する際には、次の6点をいずれかに必ず位置づけること。 ①学力向上に関する取組 ②体力向上に関する取組 ③心の育ちに関する取組 ④いじめ問題解決に関する取組 ⑤特別支援教育推進に関する取組 ⑥あいさつ日本一に関する取組 ○ 小・中学校においては、①学力向上に関する取組、②体力向上に関する取組、③心の育ちに関する取組の部分の記述について、スクールプランと整合性を取ることを。 ○評価の例 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった
《本年度の重点目標》		
《重点目標1》英語教育リーディング事業、子どもつながりプログラム、体育授業パワーアッププラン等を活用し、知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成を推進する。		
《重点目標2》心のバリアフリー事業、いじめアンケート、あいさつ名人コンクール、交通安全指導等の実施を通して、健康で、安全・安心な学校づくりを推進する。		
《重点目標3》家庭・地域(保幼、中学、大学、市民センター、児童クラブ等)と連携し、開かれた学校づくりを推進する。		

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度の改善点
学力向上に関する取組	【授業改善①】 ◇「目標が示されていたましたが、振り返る活動をよく行っていましたか。」<児童質問紙61・62>について、肯定的な回答をした児童の増加 【授業改善②】 ◇「授業では、学級の友達との間で話合う活動をよく行っていたと思いますか。」<児童質問紙57>について、肯定的な回答をした児童の増加 【授業改善③】 ◇「授業改善評価シートを活用して、授業改善に向けて取り組めたか。」<学校アンケート 独自>について、肯定的な回答をした教員の割合の増加 【補充学習】 ◇「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいか。」<児童質問紙39>について、肯定的な回答をした児童の増加 【家庭学習】 ◇「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」<児童質問紙29>について、肯定的な回答をした児童の増加 【特色ある取組】 ◇「研修を通して英語教育リーディングスクールを理解し、推進に努めたか。」<学校アンケート 独自>について、肯定的な回答をした教員の増加 【組織的取組】 ◇「学力向上に向けて組織的に取り組めたか。」<学校アンケート 独自>について、肯定的な回答をした教員の増加	【授業改善①】【授業改善②】【授業改善③】 ○一単位の授業の中で、めあてを立てる時間と学習をまとめる時間を確保する。 ○学習の終末に3分間の振り返りの時間(書く活動)を設けるとともに、次時の学習につなぐ。 ○管理職が毎日校内巡視を行い、実施状況を確認するとともに、教員に対する指導助言を行う。 ○教育センターの「授業づくり動画」を活用し、全校でアクティブラーニングについて共通理解する。 ○全校共通の学習展開(ひびきの授業モデル)「つかむ・考える・深める・まとめる」を周知し、深める場面では必ず「話し合う活動」を位置付ける。 ○授業研究では必ず事前研修を行うとともに、「授業改善評価シート」を活用し、授業改善に努める。 【補充学習】 ○学力向上のための特設時間(5校前時に15分間のひびきのタイム)を設定し、全校一斉で実施する。 ○「単元末テスト」等を活用し、児童一人ひとりのつまづきを把握するとともに、その課題解決を図ることができるように「ひびきのタイム」の内容を工夫する。 【家庭学習】 ○学力向上推進委員会において、家庭学習の内容・量について共通理解(「家庭学習のすすめ」参照)するとともに、学校だより等で家庭に周知する。 ○中・高学年では、学校独自の自学ノート(1日1ページを目安)の取り組みを進める。自学ノートには家庭学習の計画を書く欄を設け、帰りの会を活用して計画を立てさせるようにする。 【特色ある取組】 ○教育委員会と連携し、英語教育リーディングスクール推進委員会を設置して、研修の目的・時期・内容・講師等について計画を立てる。 ○全職員で外国語体験、外国語活動や英語科の授業イメージをもつとともに、授業の進め方や指導・支援のあり方について共通理解する。 【組織的取組】 ○学力向上推進委員会を中心に、補充学習、家庭学習の充実、単元末テストの活用など、学力向上に向けた取り組みを推進するとともに、全職員で共通理解する場を設定する。	B	【授業改善①】【授業改善②】【授業改善③】 ○「目標が示されていたましたが、振り返る活動をよく行っていましたか。」「授業では、学級の友達との間で話合う活動をよく行っていたと思いますか。」<質問紙61・62・57>ともに当初の目標を達成できた。2学期末では特に、全員の児童が、話し合う活動<質問紙57>がよくできた・できたと回答しており、目標を十分に達成することができた。「めあて」「ふりかえり」も定着している状況にある。 ○「授業改善評価シート」を主題研修で必ず使用し、教員の指導力の改善に活用できた。 ○主題研究として、互見授業や協議会を全校で積極的に実施することができた。 ◆授業内容(テスト等)によって「めあて」が示せていない時があった。概ね目標は達成できているが、油断することなく、定着を図っていく必要がある。 ◆授業研究すべてで「授業改善シート」を活用することができた。「授業改善評価シート」を活用して、授業改善に向けて取り組めたか。」<学校アンケート 独自>について、肯定的な回答をした教員の割合は1学期と比べて増加したが、まだ十分とはいえない。さらなる活用を促したい。 【補充学習】 ○2学期末児童アンケートでは、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいか。」<児童質問紙39>について、肯定的な回答をした児童の割合は、1学期より大幅に増加した。全国学力調査・北九州学力調査において、いずれも(どの教科も)全国や市の平均を上回ることができた。 ◆今後は、(パソコンによる)学力定着サポートシステムを積極的に活用するなどして、さらなる学力の定着を図りたい。 【家庭学習】 ○2学期末児童アンケートで、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」<児童質問紙29>について、肯定的な回答をした児童が大幅に増加し、目標を達成することができた。 ◆「自学ノート」に取り組む学級は増えたが、学校として組織的に取り組むことは十分ではなかった。 【特色ある取組】 ○学校アンケート:独自で、リーディングスクールについて肯定的な回答をした教員の割合が大幅に増え、目標を達成することができた。 ◆平成30年度の「英語教育リーディングスクール実践報告会」に向けて、全職員で準備を進めていく必要がある。 【組織的取組】 ○「学力向上に向けて組織的に取り組めたか。」<学校アンケート 独自>について、肯定的な回答をした教員が増加した。主題研究として、互見授業や協議会をを全校で実施できた。 ◆「ひびきの授業モデル」の理解は進んだが、外国語活動の時間になじまない部分があり、うまく活用できていない。内容の改善が必要である。
体力向上に関する取組	【授業改善】 ◇「ふだんの体育の授業では、授業のはじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていますか。」<学校アンケート独自>について、肯定的な回答をした児童の増加 【運動習慣】 ◇「一校一取組を決め、年間を通して、週1回全校で取り組む」	【授業改善】 ○体育の授業における「めあて・ねらい」の大切さを共通理解する場(研修会)を設けるとともに、(特に運動場において)掲示することができるボードを学校で準備する。 ○体育科学習始業時に「ジャンプアップ運動」等を取り入れ、体力アップに努める。 【運動習慣】 ○新体力テストを全学年・全種目、適切に実施するための校内研修を行う。 ○体力テストの結果を分析し、(スポコン広場等を活用して)児童の実態に応じた一校一取り組みを計画する。	B	【授業改善】 ○2学期末の独自アンケート「ふだんの体育の授業では、授業のはじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていますか。」で肯定的な回答をした児童が、1学期末より増えた。教員に対する同様の内容のアンケート(自己評価)結果についても、肯定的な回答をした教員が1学期よりも増加した。 ◆体育館における「めあて」「ふりかえり」は徹底できたが、運動場はボードを購入できず、十分ではなかった。 【運動習慣】 ○3学期になって全校で「縄跳び週間」を設定し、短縄チャレンジ、長縄チャレンジなどの取組を通して、体力増加と運動習慣づくりに努めた。全校での取組を計画・実施することができたが、年間を通じた取り組みにはならなかった。 ◆保護者から、体力作りのための「マラソン大会をしてほしい」との要望が出ている。来年度の実施(年間を通した取組)に向け、検討したい。
心の育ちに関する取組	【授業改善①(特別活動)】 ◇「自分には、よいところがあると思うか。」<児童質問紙6>について、肯定的な回答をした児童の増加 【授業改善②(道徳)】 ◇「将来の夢や目標をもっているか。」<児童質問紙10>について、肯定的な回答をした児童の増加	【授業改善①(特別活動)】 ○「北九州子どもつながりプログラム」を系統的に行い、児童同士の間関係を深める。学級や学校への所属感を高め、有用感をもたせるために、係活動や委員会活動を充実させる。 ○学級活動や帰りの会などで「友達のよいところみつつけ」を行うなど、互いを認め合いほめあう取り組みを多く設定する。 【授業改善②(道徳)】 ○全ての学級において道徳の時間や学級活動の時間を通して、将来の夢や目標に触れる機会を設定する。 ○生活科や総合的な学習の時間において、大学との交流、幼稚園との交流、市民センター(地域)との交流等とキャリア教育とを関連させた授業を行い、自分の将来の姿をイメージできるようにする。	A	【授業改善①(特別活動)】 ○2学期末児童アンケートの「自分には、よいところがあると思うか。」<児童質問紙6>で、多くの児童が肯定的な回答をしており、目標を達成することができた。 ◆引き続き「北九州子どもつながりプログラム」の活用を促し、児童の自尊心を高める取組を充実させたい。 【授業改善②(道徳)】 ○児童アンケート「将来の夢や目標をもっているか。」<質問紙10>で、多くの児童が肯定的な回答をしており、目標を達成することができた。 ◆3学期に、6年生とその保護者を対象とした「夢授業」を実施し、多くの職業人の方から仕事の大切さや素晴らしさを学ぶことができた。来年度は、もう少し早い時期に実施できるよう計画したい(本年度は非常に寒かった)。
健康・安心・安全の取組	【健康で、安全・安心な学校づくりの推進】 ◇各種検診や発育測定の内滑で確実な実施 ◇交通事故児童0名をめざす ◇いじめの件数(認知件数)の減少 ◇特別支援学級(知的・情緒)を中心とした、特別支援学校、近隣の小学校、交流学級等との交流の回数の増加 ◇「あいさつ日本一」への積極的な取組の実施	【健康で、安全・安心な学校づくりの推進】 ○内科・耳鼻科・眼科・歯科などの検診や発育測定について、学校医や学級担任との打ち合わせを計画のかつ丁寧に行い、円滑に実施できるようにする。 ○保護者・教職員が協力して朝の交通安全指導を行う。特に、学期始まりにはできるだけ多くの人員を危険個所に配置して安全指導を行う。また、危険個所の点検を定期的に行うとともに、店舗等にも協力を求めて、安全な環境整備に努める。さらに、学年に応じた安全に関する行事を実施する。 ○いじめアンケートを定期的実施し、いじめの状況や児童の安心の状況を把握するとともに、聞き取り調査等を通して心のケアに努める。 ○「心のバリアフリー事業」の推進を通して、本校の特別支援学級と6年生、小池特別支援学校の児童との「ふうせんパレーボール交流」を実施する。交流の様子は、VTRにまとめ全校放送する。また、近隣小学校の特別支援学級との交流を実施する。 ○児童集会委員会主催の「あいさつ運動」の実施、教員主催の「あいさつ名人コンクール」の実施を通して、あいさつ日本一への意識を高める。	A	【健康で、安全・安心な学校づくりの推進】 ○年間計画通りに各種検診や発育測定を行うことができた。 ◆児童数も多く、予定時間をオーバーする検診があった。より綿密な打ち合わせや円滑な実施のための工夫が必要である。 ○交通事故児童0名を達成できた。警察署・消防署と連携し「1年生交通安全教室」「3年生自転車教室」「4年生消防士さんといっしょ」「6年生スクール救命士」「全校避難訓練」等の行事を実施し、安全に関する意識や技能を高めることができた。 ◆平成30年度は地域や保護者と連携した「地域防災訓練」を実施する。 ○アンケートや保護者の訴えを通して、いじめやその兆候を把握・対応し、解消することができた。 ◆今後も、いじめアンケートの実施とその後の聞き取り、心のケア等を継続する。 ○「心のバリアフリー事業」を年間を通して計画的に実施できた。また、企業応援団を活用して、「人権教育(6年生児童対象・保護者対象)」「6年生薬物乱用防止教室」「4年生福祉体験」「6年生いのちの授業(生命の誕生)」を実施することができた。 ◆平成30年度に「心のバリアフリー事業」は終了するが、本年度実施した活動をきっかけに、さらに特別支援教育交流を深めていきたい。 ○保護者や地域の方から、「ひびきの小学校の児童はあいさつがすばらしい」という声を聴くことができた。 ◆今後も、「あいさつ日本一」に向けた取り組みを工夫・実施していきたい。
開かれた学校づくりの取組	【開かれた学校づくりの推進】 ◇学術研究都市内の大学と連携した活動の積極的な実施 ◇中学校との日常的な連携の実施 ◇幼稚園、保育園との交流学習の実施 ◇市民センターや地域と連携した学校行事やPTA行事の実施	【開かれた学校づくりの推進】 ○学術研究都市内の大学とコンタクトを取り、国際理解教育や環境教育、英語(外国語)教育につながる活動を計画・実施する。 ○洞北中学校と、小中連携推進員を通した日常的な連携や英語教育リーディングに関する連携を行う。 ○浅川幼稚園、ひびきの保育所との交流学習を実施し、保・幼・小の連携を図る。 ○市民センターと協力・連携して家庭教育学級を工夫実施する。「3年生のお店(カーニバル)見学」「4年生の小石ちょうちん山笠の学習」「3年生の昔遊び体験」「6年生の夢授業(キャリア教育)」「全学級を対象とした絵本の読み聞かせ」など、地域の方に協力していただく授業を計画・実施する。	B	【開かれた学校づくりの推進】 ○3学期に、北九州市立大学と連携した「泡消火器実験」「学校キャラクターづくり」、早稲田大学・九州工業大学と連携した「留学生交流(フレンドシップフェスティバル)」など、国際理解教育や環境教育、英語(外国語)教育に関連する、大学と連携した活動を実施してきた。 ◆平成30年度は、大学と連携した全校児童を対象とした学校行事(イベント)を行いたい。 ○洞北中学校と、小中連携推進員を中心とした日常的な交流ができた。また、英語教育リーディング校として授業を見合うことができた。中学校区の人権教育講演会、授業参観と情報交換(洞北中学校担当)に参加した。 ◆平成30年度は、6月の「英語教育リーディングスクール実践報告会」を通して、2年間の英語教育の取組を市内小・中学校に発信する予定である。 ○5年生の交流学習(8回実施)を通して、幼稚園、保育所との交流を図ることができた。 ◆1年生との交流(人数的に難しいところがある)を検討する。 ○市民センターと連携した家庭教育学級を4回実施することができた。また、授業の中で様々な地域の方に指導していただくことができた。 ◆家庭教育学級は、2回が講話、2回がイベント(夕涼み会、フラワーアレンジメント)だったが、さらに内容を工夫したい。保護者の参加が少ない回があったので増やしたい。